

朗唱劇『屁こき嫁の冒険』

登場人物

隣の婆さま 屁こき嫁が嫁いだ家の隣人、好奇心旺盛

婆さま 屁こき嫁の姑

息子 屁こき嫁の夫

嫁

侍I～V

殿さま

岩

子ども

山姥

カラスの勘吉

狐の木村コン之助

コロス

コロス

（うたI）

コロス

コロス

コロス

コロス

コロス

コロス

コロス

（息子はいる）

息子

婆さま

息子

隣の婆さま

息子

婆さま

隣の婆さま

朗唱劇『屁こき嫁の冒険』

山の向こうの村から嫁いできた、才色兼ね備えた嫁、屁がハリケーン並みの勢い

殿さまに仕える武士たち、腕に覚えがあるが、岩をどかせない

ある城の主、屁こき嫁を側室に迎えるが、天守閣ごと吹き飛ばされる

大名行列の邪魔になつた岩、性別は「女」らしい

父母兄姉を山姥に喰われ、人釣りの餌にされた童

屁こき嫁をさらうも、屁こき相撲で敗れる

カラスの勘吉 屁こき横綱決定戦の呼び出し

狐の木村コン之助 屁こき横綱決定戦の行司

コロス 語りと歌、大名行列など

へ、へ、屁こけば 城飛ぶ 屋根が飛ぶ

は、は、腹いた 颜色真つ青 のたうちまわる嫁

ふ、ふ、古屋の 漏りより おそろし

嫁こが屁ひれば 岩こもどければ 山姥かなわぬ

昔々あるところに、婆さまと息子が一人で暮らしておりました。あるとき山の向こうの村か

ら嫁をもらうことになりました

このたびは息子どもの嫁が来たそうだの

おかげさまで、とてもよく働く嫁でしてな

それはそれは

朝あ暗れえうちからいつちばん早く起きて掃除するは、まかないするわ：

夜あ夜でみなが寝静まつてもろうそくの灯りで針仕事する、そら一見事な嫁でな

おいおい婆さま、何をまたべらべらべらしゃべくつてから

いいでねえか、人の悪い噂してるわけでもねえし…

こういうことはあまり云いふらさねで、胸に大事にしまつともんだぞ

ハツハツハツ…そんだなそんだな、しかしい娘であることにまちがいはないだろうが

はい、それがほんとに働きもんで、こうしてくれと思うだけで察して動く、痒いところにや

手が届く、一を聞いて十を知る、それに気立てもいい、優しくて思いやりがあつて情に深く、その上とびきりのべっぴんときてる…

おめえこそ、少しも胸にしまつてねえだろが
出てくる出てくる

息子 これでも百分の九十九はしまつてある

婆さま そうか、ではもう少し云つて見ろや

息子 婆さま・隣の婆さま 出せ出せ

息子

クレオパトラに勝る美貌で、ピアノが弾けて英語ペラペラ、そろばん一級、柔道黒帯、趣味はマクロビ・ホメオパシー・シャタイナー、それに特技がカフェアートだな

婆さま 息子やいくら嫁このできがよくても、ピアノと英語は時代的に無理があるんでねえか

隣の婆さま それにもマクロビ・ホメオパシー・シャタイナーもいき過ぎだぞ、東城百合子先生までにどじめとけ、伝統食だからな

息子 わつかりました、詳しいですね。で、カフェアートはよかつたですかね?

隣の婆さま それはいいが、正しくはラテアートだな

息子 さ、さすがつ、隣の婆さま!

隣の婆さま フツフツフツフツ…

婆さま しかしおめえは無口でぶつきらぼうな息子だと思つていたが、これまで二十数年間親をたぶらかしてたのか

隣の婆さま ほんとにほんとに、立て板に水で、口元もゆるみっぱなしの愛敬たっぷりだぞ

息子 そうゆうなそうゆうなつてか云つてくれ云つてくれー

三人 ハハハハ…

幸せ過ぎる蜜月時代がありました

コロス

ところが暫くするうちに嫁の様子がどうもおかしい。段々口もきかなくなり、飯もろくすつ

ぱ食べないし、顔色もずんずん青くなつてゆきます。婆さまはよほど心配になりました

嫁こや嫁こ、どこか具合が悪いんでねか

(苦しそうに唸る) うんうん、うんうん…

おいおい、つれえことあたら云えよ、苦しいことあつたら吐き出せよ

(はずかしそうに) はずかしくて、よう云われぬ

はずかしなんて思うでね、おめえも女、おれも女、おれは女と云つたつてシワクチヤ腰曲りの総入歯だ、ま、オールセラミックではあるがな…、おめえは何も気にすることねえ、云つてみろ

云えば笑うに決まつとるし

そんなことねえ、笑わぬつて約束する

ほんとだ

ならば云うから、笑うなよ

したれば笑わねから云つてみろ

おら、屁こくのがまんしどるべ

婆さま+コロス (爆笑) ギャーハツハツハツハツハツ: 何だとおめえ屁ばがまんしどたのか

(怒つて) ほうれやつぱり笑つたるが、笑わぬと約束したのに笑つたるが、(コロスを指して) それもみんな揃つてな!